

全国の成人男性を対象とした郵送法による質問紙調査 性指向別にみた検査行動、情報との接触、知識に関する研究

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学看護学部）

研究協力者：塩野徳史（名古屋市立大学看護学部）、健山正男（琉球大学大学院医学研究科）、山本政弘（国立病院機構九州医療センター）、鬼塚哲郎（京都産業大学/MASH 大阪）、内海眞（国立病院機構東名古屋病院）、伊藤俊弘（国立病院機構仙台医療センター）、市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

本研究の目的は性指向別にみた成人男性の HIV 感染症の検査受検経験、知識、身近さ、情報認知の実態について、2009 年と 2012 年の 2 回にわたり実施した調査結果の比較を行い、検査行動と情報との接触、知識といった関連要因の経年的な変化をとらえることである。対象者のサンプリングに際しては、調査地域である関東、東海、近畿、九州地域を市郡規模（大都市、その他の市、町村）で層化を行い、各ブロック・市郡規模別の層における人口規模により指定した標本数について比例配分を行った。2009 年に実施した調査では 3,000 の標本について、2012 年は 4,000 の標本について配分を行った。日本の成人男性における MSM の割合は 2012 年調査では 2.7% であった。HIV 陽性者の早期発見の増加、AIDS により診断される報告数の減少は重要な課題であるが、本調査からは MSM においても異性愛成人男性群においても、検査行動の大きな上昇は観察されなかった。ただし、HIV/AIDS に関する情報への接触経験は、2012 年は 2009 年と比較しても低下しており、社会的にも HIV/AIDS に関する関心の低下が示唆された。検査行動に目に見える変化をもたらすにはさらなる啓発や検査環境の整備が必要となる可能性が示唆された。

A. 研究目的

本研究の目的は性指向別にみた成人男性の HIV 感染症の検査受検経験、知識、身近さ、情報認知の実態について、2009 年と 2012 年の 2 回の調査結果の比較を行い、検査行動と関連要因の経年的な変化の実態をとらえることである。

B. 研究方法

1. 対象者選出と質問紙調査の方法

対象者は社団法人中央調査社の所有するマスターサンプルから抽出した。サンプリングに際しては、調査地域である関東、東海、近畿、九州地域を市郡規模（大都市、その他の

市、町村）で層化を行い、各ブロック・市郡規模別の層における 20 歳以上 59 歳未満の男性人口規模により指定した標本数について比例配分を行った。2009 年に実施した調査では 3,000 の標本について、2012 年は 4,000 の標本について配分を行った。各地域に比例配分された標本数に基づき、対象者をマスターサンプルから無作為に抽出した。マスターサンプルは、中央調査社が定期的実施している調査に、今後も回答協力することを申し出た集団から構成されている。

第 1 回調査は 2009 年 2 月から 3 月にかけて、第 2 回調査は 2012 年 2 月から 3 月にかけて実施し、対象者に質問紙を送付し郵送で回答を

回収した。質問紙には氏名や住所等、個人情報記載されていない。対象者には、回答の拒否が可能であること、結果は統計的に処理され、個人が特定されることはないことを説明した。回答の謝礼として500円分の図書券を配布した。ただし本調査は匿名であるため、回答者には質問紙とは別にはがきに謝礼発送先の記入を依頼し、調査票とは別に返送する仕組みを取り入れた。なお、本研究計画は、名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会より承認を受けて実施した。

2. 質問項目

対象者の基本属性として、居住地、年齢、学歴、性行為経験のある性別、性的に魅力を感じる性別について尋ねた。HIV検査受検については、生涯と過去1年それぞれについて「あなたはこれまでにHIV検査を受検したことがありますか」という質問を設けた。回答選択肢は「ある」「ない」の二項目であった。先行研究を参考に、HIV検査の受検に関連する要因として、HIVに感染した人（以下、HIV陽性者と記載）が身近にいるか、またはいると思うか、過去1年のHIVやエイズに関する情報入手経験、HIVや性感染症の知識についても尋ねた。HIV陽性者が身近にいるかどうかについては、「いる・いると思う」と「いない・いないと思う」の2群、HIVやエイズ関連の情報入手経験については、「あり」「なし」の2群に分類した。HIVの知識については、「性感染症とHIVの重複感染、即日検査や自宅検査キットにおける偽陽性の可能性、通常HIV検査におけるウィンドウピリオド、保健所では無料匿名で検査可能、治療薬による発症までの時間の延伸、日本のHIV感染経路は性行為が最多、治療薬の進歩でエイズは完治可能性の各項目の正誤について尋ねた。知識については、性指向別の比較については、男性と性行為経験がある群をMen who have sex with men(以下、MSM)群とし、女性のみと性経験が

ある群を異性愛者群として分類した。

3. 分析方法

第2回調査については、2010年、2012年の2回の調査の比較を行うため、本研究班における介入地域のみ限定したうえで集計を行った。

生涯のHIV検査受検経験の有無と基本属性の関連を単変量解析により検討した。また、検査経験を有する者における過去1年の検査経験、検査受検場所について分布を算出した。次に生涯でのHIV検査受検経験の有無別に関連項目（性行為経験のある相手の性別、性的魅力を感じる性別、HIV陽性者が身近にいるか/いると思うか、HIVや性感染症予防教育を受けた経験、HIV・性感染症の情報入手、知識、HIV検査の利用しやすさ）について単変量解析により検討した。

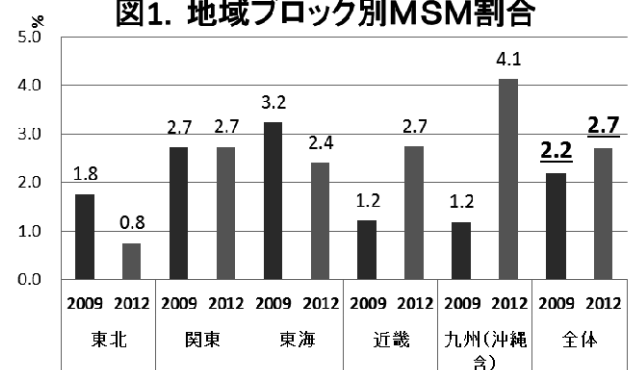
クロス集計を行う際はカイ二乗検定を用い、有意水準は5%を採用した。統計分析にはIBM SPSS Statistics for Windows ver.19.0, Windows Excelを用いた。

C. 研究結果

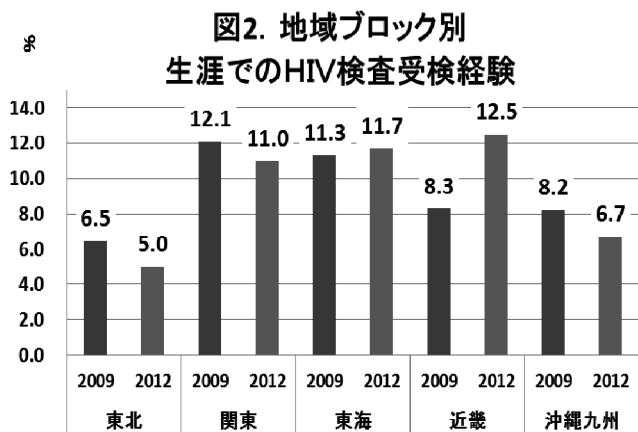
平成23(2011年)年度に実施した第2回調査では、全国から合計2,149件の回答を得た。集計結果を添付表1-2、図1-2に示した。

MSMの割合は2012年調査では2.7%となっていた。地域ブロック別にみると、0.8-4.1%の幅があった(図1)。

図1. 地域ブロック別MSM割合



生涯の検査受検行動は異性愛者においては2009年調査では10.6%、2012年調査では10.9%であり変化は見られなかった。地域ブロック別にみると東北、九州、沖縄地域は低い傾向が見られた(図2)。



性指向別にみると、MSM についてはサンプル数が少ない限界があるが、2009年調査では21.4%、2012年調査では、生涯のHIV検査の受検経験割合が13.6%と、2009年調査より低かった(表2)。

HIVに関する知識はMSMの方が異性愛者よりも全体的に高く、治療薬によりエイズの発症を防ぐことが可能となった、といった項目では正答率が第2回調査の方が有意に上昇していた。ウィンドウピリオドに関する知識や即日検査方法における偽陽性の知識は第2回調査の方が正答割合は低下していた。MSM、異性愛者双方において、全般に過去1年におけるHIV関連の情報の入手経験は第2回の方が有意に下がっていた。

D. 考察

MSMの割合は2012年度調査では2.7%であった。地域別にみると0.8-4.1%とばらつきが見られた。本調査では20歳代のものはマスターサンプルの年齢層の偏りがあるため含まれていないのが限界点である。異性愛者においてもMSMにおいても検査行動の大きな変化は見られていなかった。また過去1年間の

HIVやAIDS関連の情報の入手経験は有意に下がっており、背景要因の詳細な検討が今後必要となるであろう。

E. 結語

日本におけるMSMの割合は2012年調査では2.7%であった。インターネット調査のモニター調査より低い値であり、なぜそのような差があるのかについても検討が必要である。

HIV陽性者の早期発見の増加、AIDSの減少は重要な課題であるが、本調査からは異性愛成人男性群においても、検査行動の変化は観察されなかった。ただ受検割合については地域差があることが示唆された。検査行動に目に見える変化をもたらすにはさらなる啓発や検査環境の整備が必要となる可能性が示唆された。

F. 発表論文等

- 金子典代, 塩野徳史, コーナ・ジェーン, 新ヶ江章友, 市川誠一: 日本人成人男性における生涯でのHIV検査受検経験と関連要因, 日本エイズ学会誌, 14, 99-105, 2012

	2009(N=1250)		2012(N=1621)		有意差
	n	(%)	n	(%)	
居住地					
関東	604	48.3	801	49.4	ns
東海	221	17.7	257	15.9	
近畿	254	20.3	338	20.9	
九州・沖縄	171	13.7	225	13.9	
年齢					
30-39歳	307	24.6	522	32.2	<0.01
40-49歳	412	33.0	534	32.9	
50歳以上	531	42.5	565	34.9	
学歴					
小学校・中学校	64	5.1	48	3.0	<0.001
高校	475	38.2	533	32.9	
短期大学・専門学校	175	14.1	263	16.2	
大学・大学院	530	42.6	776	47.9	
性行為経験のある性別					
同性のみ	20	1.6	31	1.9	ns
異性のみ	1192	95.8	1519	94.0	
同性と異性の両方	8	0.6	14	0.9	
したことがない	24	1.9	52	3.2	
性的に魅力を感じる性別					
同性のみ	27	2.2	49	3.1	ns
同性、異性両方	19	1.5	28	1.7	
異性のみ	1186	96.3	1524	95.2	

1) 無回答を除いたため回答総数は異なる

	MSM				有意差	異性愛者				有意差
	2009(N=28)		2012(N=44)			2009		2012		
	n	(%)	n	(%)		n	(%)	n	(%)	
生涯の検査受検経験										
あり	6	21.4	6	13.6	0.38	126	10.6	165	10.9	0.77
なし	22	78.6	38	86.4		1064	89.4	1345	89.1	
過去1年の検査受検経験										
あり	0	0.0	1	2.3	ns	31	24.6	30	18.2	0.18
なし	6	100.0	43	97.7		95	75.4	135	81.8	
知識										
3点/6点満点以下	15	53.6	20	46.5	ns 0.63	783	65.8	1026	67.7	0.304
4点/6点満点以上	13	46.4	24	54.5		407	34.2	490	32.3	
過去1年エイズ関連情報入手										
あり	15	53.6	25	59.5	ns0.62	508	44.8	271	18.7	<0.01
なし	13	46.4	17	40.5		627	55.2	1175	81.3	
HIVマップ認知										
あり	1	3.6	1	2.3	ns	27	2.3	16	1.1	0.011
なし	27	96.4	43	97.7		1152	97.7	1503	98.9	
HIV検査・相談マップ認知										
あり	1	3.6	1	2.3	ns	39	3.3	23	1.5	<0.01
なし	27	96.4	43	97.7		1139	96.7	1496	98.5	
HIVに感染した人が身近にいるか										
いない・いないと思う	22	95.7	26	76.5	ns	873	92.5	1246	94.4	0.066
いる・いると思う	1	4.3	8	23.5		71	7.5	74	5.6	

図3 異性愛者における知識正答率の年次推移

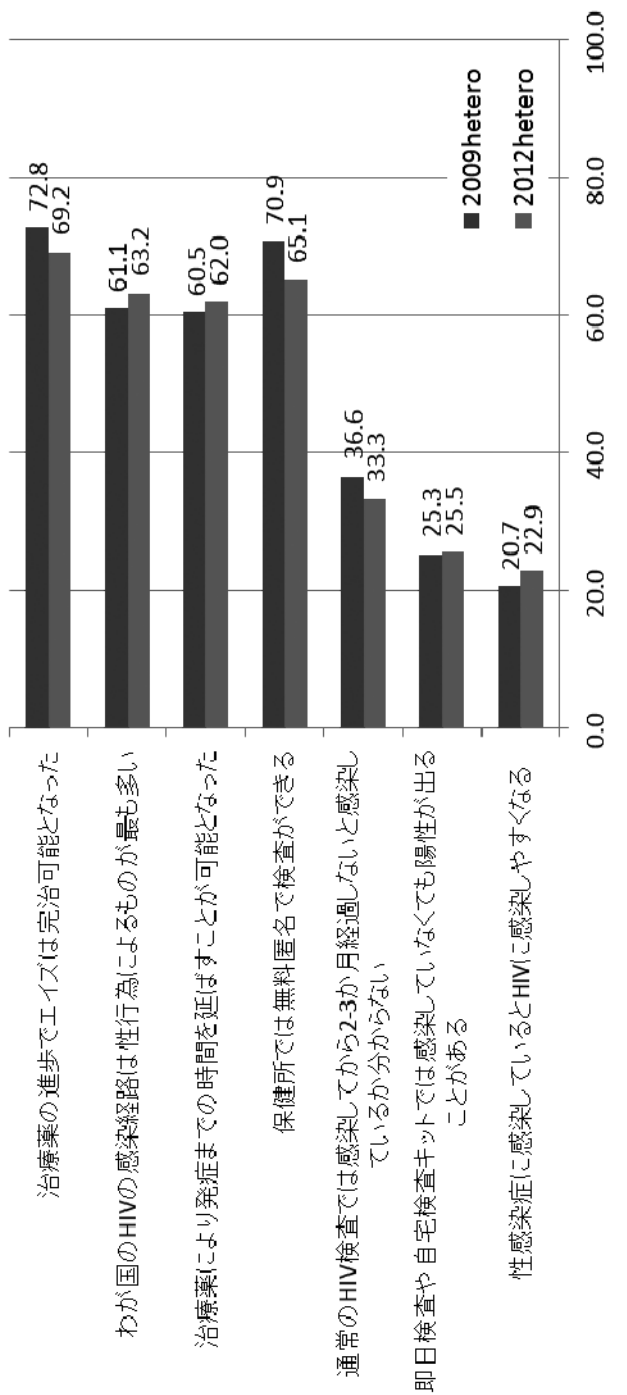


図4 MSMIにおける知識正答割合の年次推移

